2007 年 12 月ロシア国家会議選挙の結果評価と国内外への影響

2007/12/05
上智大学外国語学部ロシア語学科
教授　上野俊彦

はじめに

以下は、モスクワ時間 12 月 3 日 7:00 に公表された、開票率 85.1%の時点での数字に基づき、残りの 14.9%の票についても同様の趨勢が続くと仮定して分析した、暫定的な結論である。また、現時点では、地域ごとの得票数や得票率などについては分析していない。

なお、本稿執筆の時点で、プレス等で流されている最新の数字は、付表の注に記してあるとおりであるが、ロシア連邦中央選挙委員会議長の記者会見での公表数字であるため、確定したものとは言えないので、本稿では、分析材料として用いていない。

１．ロシア国家会議選挙結果について

（１）投票率について

開票率 85.1%の段階で各党の得票数合計は 56,181,814 票であることから、最終的に各党の得票総数は 6,600 万票程度になることが予測される。前回の選挙では、有効票と無効票を合わせた投票参加者数 60,712,300 で、これは選挙人総数の 55.75%であることが公表されている。今回の選挙でも選挙人総数に大きな違いがなければ、いわゆる投票率（ロシアの場合は、投票参加者数を選挙人総数で割った数字）は、60%を若干上回ることになるだろう。投票率の水増し云々について確かなことは言えないが、北カフカース地域の選挙人人口はもともと少ないので、仮に水増しがあったとしても、全体の数字を大きく変えるものではないであろう。したがって、とりあえず公表数字に基づく試算では、投票率は 5%程度上昇しており、「統一ロシア」の圧勝が確実な中での、いわば無風選挙であった割には、投票率の落ち込みはなく、若干の投票率の上昇があったと考えられる。

（２）主要政党の得票数について

前回の数字に比べ、「統一ロシア」は大きく得票数を増やし、すでに開票率 85.1%の時点で、得票数は前回の 1.58 倍に達しており、最終的には、前回の 1.8 倍程度、得票数 4,000 万票を超える可能性がある。ロシア連邦共産党も前回を数%程度、160 万票ほど得票数を増やす可能性がある。他方、ロシア自由民主党は、最終的には、前回の得票数を 20%程度、百数十万票下回る可能性がある。

したがって、得票数に着目すれば、「統一ロシア」の圧勝であり、共産党も健闘したと言ってよいだろう。

（３）主要政党の議席数について

前回の選挙直後の議席数と比較すると、「統一ロシア」は 6 議席増、ロシア連邦共産党も 6 議席増、ロシア自由民主党は 5 議席増となった。

また選挙直前の議席数と比較すると、「統一ロシア」は 15 議席増、ロシア連邦共産党は 11 議席増、ロシア自由民主党は 12 議席増、「公正ロシア」は 6 議席増となった。

したがって、議席数に着目すれば、各党の議席配分は、選挙前に比べて大きな変化はないと言える。

（４）選挙結果についての総評

投票率が若干上昇した中で、得票数に着目すれば、「統一ロシア」の圧倒的な勝利だったが、最も重要な議席数についてみれば、選挙前と大きな変化はなかった。

とはいえ、もともと、「統一ロシア」は、前回の選挙において小選挙区で多くの議席を獲得していたので、比例代表制に一本化した上で、比例区における得票率が前回並みであれば、「統一ロシア」は、議席を大きく減少させる可能性があった。したがって、「統一ロシア」の危機感は相当強いものがあったはずであり、それがプーチン大統領の候補者名簿一位登載、プーチン大統領自らの「統一ロシア」支持キャンペーンにつながったと考えられる。その結果、「統一ロシア」は、自党にとって不利な選挙制度の変更があったにもかかわらず、若干議席を増加させた。したがって、今回の結果は、「統一ロシア」にとって大きな勝利だったと評価することが可能である。しかし、その「統一ロシア」の大勝利は、選挙制度の変更があったがゆえに、議席には大きく反映されなかったのである。

ともかく、国家会議の議席配分に大きな変化はなく、「統一ロシア」の一党優位体制は継続したが、プーチン大統領自ら名簿一位に載り、積極的に選挙運動を展開したにもかかわらず、大幅な議席増がなかったという事実だけを強調すれば、プーチン大統領にとっては、この選挙結果は厳しいものに映るであろう。

２．国家会議選挙結果の国内外への影響

（１）国内への影響

今回の選挙では、プーチン大統領および「統一ロシア」は、この選挙を、プーチン大統領の過去 8 年間の実績に対する国民の評価、またプーチン政権下で策定された今後の経済社会プログラム（いわゆる「プーチン・プラン」）に対する国民の評価を明らかにするものである、すなわちプーチン大統領に対する国民投票である、と主張してきた。したがって、投票率の若干の上昇、「統一ロシア」の得票数の大幅な増加を強調して、プーチン大統領と「統一ロシア」は、過去 8 年間の実績を国民は高く評価し、「プーチン・プラン」に対しても国民から高い評価と期待が表明されたと主張することになるであろう。したがって、新大統領が誰になったとしても、当面はプーチン路線の継続は当然のことであり、大統領を退いたプーチン氏がいかなる公職につくかは現時点では明らかでないが、いかな

る地位にあろうとも、ロシア政界において、事実上の最高実力者の地位に当面のあいだとどまることは間違いないであろう。

ちなみに、中央選挙委員会議長チューロフが、12 月 4 日の記者会見で、「選挙人は、11 政党の候補者名簿に投票したのであり、政党に投じられた投票数は、政党支持率を意味するのであって、候補者名簿に記載されている個別具体的な候補者に対するものではない」（http://www.rg.ru/2007/12/05/izbirkom.html [2007/12/05 参照]）と指摘して、今回の選挙がプーチン大統領に対する事実上の国民投票であるといった見方を否定したことは興味深い。チューロフ氏はプーチン大統領に近い関係にあると考えられてきたが、チューロフ氏のこうした見解がクレムリンの一定部分の意見を代弁するものだとすれば、今回の選挙が「プーチンの大勝利」であるという見方を否定しようとする動きが政権内部に出てきているということを推測させる。

他方、「統一ロシア」圧勝の影で目立たないが、ロシア政治において現実的な影響力を有する唯一の野党とも言えるロシア連邦共産党が、厳しい情勢の中でも、得票数、議席数とも伸ばしたことは、軽視すべきではない。長期低落傾向のあった共産党が、その傾向に歯止めをかけ、唯一、影響力のある野党として今後も存続し、その影響力を保持し続けることが明白になったからである。

議席獲得のための最低得票率が 5 から 7%に引き上げられ、投票前の情勢では、確実に議席を獲得できると言える政党は、「統一ロシア」と共産党の 2 党だけという情勢であったが、結局、ロシア自由民主党と「公正ロシア」も議席を獲得することになったのは、ロシア国民のバランス感覚が働いた結果とも考えられる。とくに、プーチン支持を党是としていたにもかかわらず、「統一ロシア」の候補者名簿第一位にプーチンが載ったために、大苦戦を強いられ、また厳しいバッシングにさらされもした「公正ロシア」が国家会議に残っただけでなく、議席を若干増したことは、2007 年春の地方選の結果を含め、同党にとって大きな自信となったであろう。党首ミローノフ上院議長の政界における影響力は若干強まり、もう一度、クレムリンは与党 2 党体制ないし建設的野党育成のプランの可能性を模索し始めることになるかもしれない。しかし、この与党 2 党体制は、地方首長の利益を基盤とする旧「祖国－全ロシア」と、中央官僚の利益を基盤とする旧「統一」とが、クレムリンの強力な後押しで合同して成立した、いわば同床異夢の「統一ロシア」の将来に、若干の不安要素を残すことにもなる「諸刃の剣」と言える。今後の「公正ロシア」の動向が注目される。

（２）国外への影響

今回の選挙は、各地域における投票率と「統一ロシア」の得票率が、自分自身の進退に大きく影響すると考えた地方首長たちが、自身の首をかけて、集票に奔走した選挙であった。そのため、選挙戦前から「統一ロシア」圧勝が明らかであるのにもかかわらず、各地で、地方首長たちが、いわゆる行政リソースを利用し、野党に対して不公正な取り扱いをすることになってしまった。その結果、今回の選挙は、きわめて不正な選挙であったという厳しい評価が、野党からも、また諸外国とりわけ欧米諸国からも、なされることになった。かくして、今回の選挙は、ロシアの対外イメージを損なうものとなったと言える。

さらに、国民の選挙で選ばれる新大統領が、ほとんど無名に近い人物で、実力や人気もないまま、プーチンの率いる「統一ロシア」の力によって大統領になったに過ぎず、就任後も、形式的な存在にとどまり、なんら公職についていないプーチン氏が事実上の国家指導者であるということになれば、ロシアの対外イメージは、ますます悪化することになろう。

プーチン氏は、こういった対外イメージの悪化を改善しなければならないという課題を背負うことになったのである。

それゆえ、新大統領就任ということもあり、ロシアは、しばらくのあいだ、強硬な対外政策を打ち出すということは難しくなったと言えるかも知れない。

付表　選挙結果（12 月 3 日 7:00、開票率 85.1%の公式数字）

政党	2003 年 12 月			選挙前	2007 年 12 月		
	得票数	得票率	議席数	議席数	得票数	得票率	議席数
ロシア農業党	2,205,704	3.6			1,358,263	2.4	
国民勢力					624,659	1.1	
ロシア民主党	136,294	0.2			72,923	0.1	
ロシア連邦共産党	7,647,820	12.6	52	47	6,638,966	11.7	58
右派勢力同盟	2,408,356	4.0			562,501	1.0	
社会公正党					127,072	0.2	
ロシア自由民主党	6,943,885	11.5	36	29	4,767,810	8.4	41
「公正ロシア」				33	4,538,340	8.0	39
「ロシアの愛国者」					511,878	0.9	
「統一ロシア」	22,779,279	37.6	306	297	36,049,391	63.2	312
「ヤーブラコ」	2,609,823	4.3			930,011	1.6	
投票総数	60,712,300				56,181,814	98.6	

出典：*Vestnik Tsentral'noi izbiratelinoi komissii Rossiiskoi Federatsii*, 2004 No. 5 (157), p. 17; http://www.cikrf.ru/news/info_021107_13.jsp [2007/12/05 参照]

注：投票総数は、2003 年 12 月の数字については、「すべての政党に反対」および無効票を含む数字であるが、2007 年 12 月の数字については、開票率 85.1%の時点での各党の得票数の合計であり、無効票は含まれていない。なお、選挙制度の改正により、今回から、「すべての政党に反対」の選択肢はなくなった。議席数は、2003 年 12 月の数字については、小選挙区選出議員の議席を含めた報道による取りまとめの数字であり、2007 年 12 月の数字については、筆者による計算である。なお、2007 年 12 月の数字については、現時点においてプレス等で公表されている数字と若干異なるが、プレス等は、ロシア連邦中央選挙委員会がホームページで公表している 12 月 3 日 7:00 時点の数字よりも新しい数字を、中央選挙委員会の記者会見等で入手しているためである。ちなみに、12 月 4 日のチューロフ中央選挙委員会議長の記者会見では、各党の得票率は、「統一ロシア」64.24%、ロシア連邦共産党 11.61%、ロシア自由民主党 8.15%、「公正ロシア」7.75%である（http://www.rg.ru/2007/12/05/izbirkom.html [2007/12/05 参照]）。したがって、それに基づく各党議席は、「統一ロシア」315 議席、ロシア連邦共産党 57 議席、ロシア自由民主党 40 議席、「公正ロシア」38 議席である。